

前方 | 関与 | 即応

# 21世紀の海軍力のための 協力戦略



2015年3月

## 目次

### 前書き

### 序文

### 序論

#### セクション I 地球規模の安全保障環境

- 地政学的変化
- 軍事的挑戦課題

#### セクション II 前方配備と提携関係

- インド-アジア-太平洋
- 中東
- 欧州
- アフリカ
- 西半球
- 北極および南極

#### セクション III 国家安全保障を支援する海軍力

- 全領域へのアクセス
- 抑止力
- 制海権
- 戦力投射
- 海上保安

#### セクション IV 部隊構成：将来への部隊の構築

- 柔軟で機敏で即応性のある部隊
- 人員
- 概念
- 能力

### 結論

## 前書き

米国の海洋軍種である米海軍、海兵隊、沿岸警備隊は、地球全体に独特の形でプレゼンスを提供している。平時でも戦時においても、人道援助・災害救助による同盟国支援から軍事活動による敵の阻止・撃退に至るまで全作戦領域において、海軍軍人、海兵隊員、沿岸警備隊員は必要とされる時に必要とされる海洋域、遠隔地に派遣される。海上輸送によってより速やかに目的地に到達し、より長期間そこに駐留し、必要な全装備を携帯し、いかなる国の許可を求める必要もない。

米国の建国者達は米国が海洋国家であり、海上部隊が重要であることを認識し、米国憲法も議会が「海軍を維持する」必要性を明記している。現在のダイナミックな安全保障環境において、社会秩序の混乱、政治的激変、技術の進歩によって養われた国家・非国家の活動家からの多様な挑戦課題がある中で、その必要性は一層予見に富むものとなっている。

米国海軍、海兵隊、沿岸警備隊は米国防衛の第一線であり、その第一線は多くの場合米国から遠く離れている。このため、世界における米国の主導的立場を維持するためには、米国の海洋軍種が米海洋戦略に時として立ち帰り、変化する国際関係と地球規模の責任に対する米国のアプローチを再評価する必要がある。この必要な再検討を通じて、安定を確保し、同盟国・提携国との関係を構築し、戦争を防止し、危機にあつて米国の指導者に選択肢を提供するために、世界中へのプレゼンスの提供に焦点を当てることが確認された。潜在的な敵を阻止し、必要とあらば戦闘し勝利するために必要な戦闘力を維持することに対する我々の継続的な強い決意が確認された。

米国民に対する我々の責任は、財源の効果的活用および進化する安全保障環境に適応するアプローチを決定する。本文書において行われた修正はまさしくそのためである。兵員支援、適正プラットフォームの構築、効率的な地球規模の能力の達成のためのそれらの活用、重要な提携関係の開発の方法に着目することは、それを成功裏に遂行し、ユニークな能力であるプレゼンスを提供することにおいて中心的重要性を持つ。

海軍力はこれまで米国の国力、繁栄、国際的名声の重要な基礎であつたし、今後もそうあり続ける。米国の海洋軍種は国家のさまざま努力、および友好国や同盟国の努力と統合されるものである。「21世紀の海軍力のための協力戦略」の改訂は、米国の繁栄を増進し安全保障を保

証する海軍・海兵隊・沿岸警備隊チームの伝統と補完能力に立脚している。変化を続ける世界の要求、および米国民と米国益の防衛に応えるために必要である。

レイ・マブス  
海軍長官

## 序文

この海洋戦略は、我々が米国の国家戦略、国防戦略、国土安全保障戦略を支援するために、どのように海洋軍種を設計し、組織し、運用するかを説明するものである。同戦略はまた、資源が制限されている時代における海洋優先課題を設定し、同時に現在の国益を増進するための戦闘能力と海軍前方配備を強調し、将来の挑戦課題に対する準備の指針を提供している。

海軍前方配備は、同盟と提携関係の強化、物品の自由な流通に基づく開放された経済システムに必要な安全な環境の提供、米国の天然資源の保護、安定性の促進、紛争抑止、武力侵略への対応にとって必須である。地球規模の海上交易が拡大し、人口が増加し、エネルギーと天然資源をめぐる競争が激化し、高度軍事技術が海洋や沿岸帯を通じて拡散するにつれ、それらの地域で活動する者への挑戦課題も発生するようになる。

米国民は、米国と同盟国や提携国の安全保障を脅かす急速に変化する複雑な世界の出来事に対応する上で、海洋軍種に依存し続けるであろう。米国の海軍軍人、海兵隊員、沿岸警備隊員は、過去2世紀以上にわたって誇示してきた同じ決意と即応性をもってこれらの挑戦課題に対処する準備がある。

ジョセフ・F・ダンフォード・ジュニア

米海兵隊大将

海兵隊総司令官

ジョナサン・W・グリーンナート

米海軍大将

海軍作戦部長

ポール・F・ズクント

米沿岸警備隊大将

沿岸警備隊長官



## 序論

米国は海洋国家である。2世紀以上にわたり、海軍、海兵隊、沿岸警備隊からなる海洋軍種は、危機に対処し、必要な場合は戦闘し戦争に勝利することにより、米国民を保護し米国の国益を防衛するために世界中で活動してきた。我々が「21世紀の海軍力のための協力戦略」を2007年に公表して以来、安全保障および財政環境の変化と「2012年国防戦略指針」および「2014年4年毎の国防・国土安全保障検討」を含む新しい戦略指針は、ますます複雑で相互依存が



海洋は相互に繋がらあう国際社会に不可欠で、海上貿易は今後15年間に倍増する見込みである。前方配備された米海軍部隊は過去70年間にかつてない世界的な経済成長を可能にした自由な通商を支援している。貿易量の90%が海運によるものである。世界人口の約70%が沿岸帯として知られる海岸線から100マイル以内に住んでいる。同様に、商業海運、漁業、石油ガス採掘など海上活動の殆どが海岸から200マイル以内で行われている。上の写真は、ロサンゼルス港に到着する日本のコンテナ船（写真は、ロサンゼルス港提供）

深まる世界において米国の国益を増進し続けることを保証するために最新の海洋戦略を命じている。

前方展開・前方配備された海軍部隊は地球規模の海洋公共財を作戦行動の媒体として活用し、海外地域へのアクセスを確保し、同地域における重要権益を防衛し、海外の米国民を保護し、敵対勢力が世界の海洋を利用して我々を攻撃するのを防止してきた。広大な海洋により米国の多くの戦略的権益から隔てられた西半球国家である米国にとって、遠く離れた国際海域で作戦活動を持続する能力は明確な優位性を意味する。海洋に依存し相互に繋がらあう国際社会においてこの優位性を維持することは、米国の海洋軍種と国家にとって絶対に必要なことである。

現在の地球規模的な安全保障環境は、インド・アジア太平洋地域の増大する重要性、米国の地球規模的な海上アクセスに挑戦する接近阻止領域拒否（A2AD）

能力の継続的な開発と展開、拡大し進化するテロ・犯罪ネットワークからの継続的脅威、頻度と列度が増大しつつある海洋領土紛争、海上貿易への脅威、とりわけエネルギーの流れに対する脅威により特徴づけられている。

この不穏な21世紀においては、浮上するリスクとともに機会も存在し、その機会の多くは海洋軍種により同盟国や提携国との日常的かつ建設的な関与により促進されている。主要な機会としては、相互の海上安全保障上の挑戦課題に対処し自然災害に対応するために世界中の同じ考えを持った国々や組織がそれぞれの貢献を結集するという海軍の地球規模的ネットワークの可能性がある。

この海洋戦略は2つの基礎となる原則を再確認するものである。第1は、米海軍の前方配備が国家指針に由来する次のような海軍任務を完遂するために必須だということであり、この任務とは、国土の防衛、紛争の抑止、危機への対応、侵略の撃退、海洋公共財の保護、提携関係の強化、および人道援助と災害対応の提供である。国際公共財において活動する自立的な米海軍部隊は遠隔地で米国土の保護を保証すると同時に、敵の目標を否定し、活動の自由を保全し、後続部隊のアクセスを保証するための判断の余地と選択肢を大統領に提供する。

第2に、海軍部隊は同盟国・提携国と合同して一緒に活動する時により強力になるということである。個別の能力と容量を結合させることにより、個々を集計したよりも大きな連合海軍力の効果を生み出すことができる。公式・非公式なネットワークで協働することにより、海上安全保障の相互利益に対する脅威に対処することができる。この海軍の世界規模的ネットワークの概念の強力な能力を最大限活用することにより、我々全員が新しく浮上する挑戦課題に対しより良い態勢で取り組むことができる。

海洋軍種は歴史的に、抑止、制海、戦力の投射、海上安全保障という4つの必須機能を実施す

**前方配備海軍部隊は遠隔地で米国土の保護を保証する。**

るために組織、訓練、装備されてきた。国際公共財へのアクセスが絶対的に必要なため、この戦略は全領域アクセスという第5の機能を導入しており、この機能とは、海空陸、宇宙空間。サイバー空間、さらに電磁波（EM）スペクトルなど、いかなる領域でも適正な行動の自由を保証する。

この戦略は海軍活用の情報を伝え、戦闘即応性と米国の現在・将来の財政的挑戦課題とのバランスを取る部隊について説明する。我々の部隊活用アプローチは、能力、容量、プラットフォームを地域任務の要求と整合させ、米国の最も近代的かつ技術的に高度な部隊がその戦闘力を最も必要とする場所に配置されることを保証する。この戦略はまた、海軍部隊がどのようにそ



の効果を補強し、新しい戦闘概念を活用し、技術革新を促進するかを説明する。そうすることにより、海軍軍種は米国の国益を増進させ、米国の国家安全保障の礎石としての役割を続けることを保証する進路を示す。

## セクション I

### 地球規模的な安全保障環境

海軍は、揮発性、不安定性、複雑性、相互依存により特徴付けられる地球規模的な安全保障環境の中で米国の国益を増進させねばならない。この環境は、この戦略に深遠な影響を与える地政学的変化と増大する軍事的挑戦課題を含んでいる。

#### 地政学的変化

インド・アジア太平洋地域は、米国西海岸からアフリカ東岸まで広がり、世界の最も人口が多い国10カ国のうち8カ国を包含する地域であり、米国と同盟国・提携国にとってのその重要性はますます大きくなっている。米国の経済および安全保障は、インド洋と太平洋をまたいで流通する膨大な量の貿易と密接に結びついている。この広大な海洋地域の経済的重要性、安全保障上の利益、および地理というものは、米国の国益を保護し同地域の安定に対する永続的コミットメントを維持するための海軍への依存度の大きさを決定づける。

同盟国および提携国と一緒に活動し関与する時に、我々はより強力になる。

共有する戦略的利益に基づき、米国はインド・アジア太平洋地域の長年にわたる同盟国、つまりオーストラリア、日本、ニュージーランド、フィリピン、韓国、タイとの協力を強化し、バングラデシュ、ブルネイ、インド、インドネシア、マレーシア、ミクロネシア、パキスタン、シンガポール、ベトナムなどの国々との提携関係の構築を続ける。

中国のインド洋、太平洋への海軍拡張は機会と挑戦課題の両方を提示している。中国はアデン湾での海賊対策活動を支援し、病院船により可能となる人道援助と災害対策任務を実施し、大規模多国間海軍演習に参加している。中国は「洋上で不慮の遭遇をした場合の行動基準（CUES）」署名国として、国際規範、国際機関、台頭する大国の地位に相応しい行動基準を受け入れる能力を示した。しかし、中国の海軍拡張は、中国が領土権の主張のために他の主権国家に対して武力を行使したり威嚇したりする時に挑戦課題も提示している。この行動は中国の軍事的意図に関する透明性の欠如とともに、緊張と不安定の要因になっており、誤算あるいは緊張拡大につながる可能性がある。米国の海洋軍種は継続的な前方配備と中国海軍部隊との建設

的交流を通して、誤解の可能性を軽減し攻撃を抑制し地域の平和と安定への我々の強い決意を保持している。

中東およびアフリカ全域の持続的な不安定と十分統治されていない地域は、暴力的過激主義組織や他のテロ組織の活動を許している。これらの組織には、「イラクとレバントのイスラム国（ISIL）」、ヒズボラ、ハマス、アル・シャバブ、ボコ・ハラム、アルカイダおよびその関連組織などがある。このようなネットワークは主権国家を不安定にさせ、2015年初めのパリでの銃撃のような攻撃に影響を与え、テロと戦う世界的な努力における前方配備・即応性のある海軍部隊が不可欠であることを浮き彫りにしている。

十分に統治されていない海岸地域は海賊行為や非合法な海上密輸活動からテロ活動支援に至るまで地域的に不安定な状況を生み出す。米海軍部隊と世界の提携国の協調努力を通じて、海賊行為はアフリカ最東北端地域では現在減少してきているが、西アフリカ周辺、特にギニア湾とインド洋、太平洋では懸念材料になっている。この地域的な不安定は極めて繋がりが強い世界における地球規模の経済の安定を脅かし、参加国の得意とする能力を活用する地球規模的海軍ネットワークの必要性を強調している。

北米と欧州にまたがる北大西洋条約機構（NATO）は世界で最も強力な同盟であり、環大西洋安全保障の中心である。海賊対策などの共通の海上挑戦課題に関して加盟国・提携国と協力し統合するための我々の相互努力は安全保障協力のモデルである。米海軍は、ルーマニアとポーランドの陸上弾道ミサイル防衛（BMD）能力から常設NA



*「現在の現実には、地球規模的な海軍ネットワークを考えねばならない状況である。協力する意思さえあればいいので、つまり強い決意は必要なく、同盟に加わる必要もなく、誰でもプラグ・アンド・プレイで、接続さえすればだれでも活用できる。人道援助・災害対応であれ、テロ対策であれ、超国家的組織犯罪対策や海賊対策であれ、誰にでも相応しい任務がある」。*

— グリーナート海軍大将

米国の安全保障と繁栄は同盟国・提携国の安全保障と繁栄と共に増大する。海洋軍種は共通の安全保障利益に対応するために地球規模的な海軍ネットワークを拡大し続ける。これは、シンガポールでの水上艦即応性協力訓練（CARAT）演習で駆逐艦USSチャンフーン（DDG93）がシンガポール共和国のフリゲート艦RSSステッドファースト（FFG70）、米沿岸警備隊巡視船メロン（WMEC717）、シンガポール共和国コルベット艦RSSビジランス（90）と共同訓練している場面。CARATは関係強化、部隊即応性強化のために毎年一度東南アジアで実施されている一連の二国間演習である。

TO海上グループでの活動まで、NATOの任務に積極的に参加している。

ロシアの軍近代化、非合法的クリミア併合、ウクライナで進行中の軍事攻撃は、欧州の安全保障と安定に対する我々のコミットメントの重要性を強調している。NATO加盟国は欧州海上戦域で安全保障を提供する海軍部隊へのコミットメントを維持することにより、同盟の継続的な活力を保証できる。

2040年までに世界のエネルギー消費が56%増大するという予測に示されているように、エネルギーと資源に対する需要の急増は、ホルムズ海峡、マラッカ海峡、パナマ運河、スエズ運河を含む戦略的海上交差点を通過する貿易の自由な流れの重要性を浮き彫りにしている。過去数十年間で初めて米国のエネルギー輸出はエネルギー輸入を上回っているが、米国は中東、中央アジアからの石油・ガスの中断のない供給に依存しているグローバル経済とつながっている。この中断のない供給は高まる政治的不安定と地域紛争により危険に曝されうる。とりわけ、イランは能力拡大の開発を続けていて、ホルムズ海峡を通過する貿易を脅かしている。エネルギー供給が中断されるとグローバル経済は即座に大きな影響を受ける。米国の周辺では、エネルギー生産・輸送の激変、パナマ運河拡張計画の完成が、米国内および地球規模の海運パターンを根本的に変えよう。

超国家的犯罪組織（TCO）はアフリカおよび西半球、特に中米と米国本土の南部国境地帯の安定に対する脅威であり続けている。そのネットワークは人身売買および相互関連する武器、麻薬、資金の流れを促進しており、それら全ては米国本土、同盟国および海外権益を攻撃しようとするテロリストにより悪用される可能性がある。



**「大統領は、我々がアクセスへの脅威にかかわらず戦力投射能力を持つよう指示した。我々が別々に投資の道を進む経済的余裕はもはやないので、軍種それぞれの長所を活用しなければならない」。**

—グリーンナート海軍大将

ここに示されているアーレイ・バーク級誘導ミサイル駆逐艦USSステレット（DDG104）は機雷対策艦USSデバステイター（MCM6）およびUSSデクストラ（MCM13）、英国王室海軍機雷対策艦HMSペンザンス（M106）とともに国際機雷対策演習（IMCMEX）に参加している。USSステレットは、海域安全保障軍事作戦、イラクとシリアでの打撃作戦、および米第5艦隊の責任領域での海上安全保障作戦を支援するカール・ビンソン空母打撃群の一部として展開された。

米国の海軍軍人、海兵隊員、沿岸警備隊員は国家が直面する挑戦課題に対処する用意がある。

環境の動向は海上安全保障環境をますます成形しており、とりわけ世界人口の殆どが居住している沿岸帯でその傾向が顕著である。気候変動で激化する嵐、海面上昇、海岸地域の洪水は多くの島嶼国家に偏って影響を及ぼしている。これは社会不安を引き起こし、人道援助や災害対応活動の頻度が増える可能性がある。海水温度上昇は新しい挑戦課題と機会を生

んでおり、これは氷の後退で海上活動が増えている北極と南極で最も顕著である。今後数十年間で、北極海はますます出入りしやすくなり、地域の豊富な資源と貿易路へのアクセスを求め人々によりもっと広範囲に使用されるようになるだろう。石油・ガス探査、商業用漁業、観光、鉱業などの海洋活動の増大が予想され、地域の戦略的重要性は時間の経過とともに大きくなることが予想される。北極圏における安全で安定し、かつ環境的に責任感のある活動のためには、広範囲にわたる提携関係が必要である。米国が2015年から2017年まで議長国を務めた北極評議会や南極条約のような協調フォーラムは協力拡大の機会を提供する。

## 軍事的挑戦課題

海洋軍種は、海洋公共財におけるアクセス確保、自由な活動で拡大を続ける広範囲な挑戦課題に直面している。最も顕著なのは、技術の拡散により潜在的な敵がより遠距離にいる海軍や空軍を脅かすことが可能になっていることで、それは米国の沿岸帯や内陸へのアクセスを含む一部海域へのアクセスを困難にし（接近阻止）、同地域内の米国の機動活動能力を困難にしている（領域拒否）ことである。これらの技術には、最先端の指揮統制（C2）と統合標的ネットワークに支援される長距離弾道ミサイル・巡航ミサイル、誘導式ロケット弾、ミサイル発射装置、誘導弾、迫撃砲、高度潜水艦、“スマート”機雷、高度統合防空システム、強化されたセンサーと武器を装備した第5世代戦闘機、電子戦（EW）、サイバー、宇宙空間の能力などがある。これらの軍事技術は戦時に明確な挑戦になることは確かだが、平時においても懸念の対象となる。例えば、港湾や海上交差点に秘密の機雷敷設を行う国家・非国家活動家によって、物品とサービスの自由な流れが阻害されうる。

サイバー空間および電磁波（EM）スペクトルにおける新しい挑戦課題は、我々がもはや情報で“優位”にあることを想定できなくなることを意味する。敵対者は高度なネットワーク化された情報システムを備えた我々の部隊やインフラを否定し、妨害し、無効化し、あるいは物理

的損害を与えようとする。宇宙空間、サイバー空間、EMスペクトルの悪用は、我々の世界的なC2を脅かす。海軍部隊は最も敵意に満ちたサイバーおよびEMの条件下でも活動できる弾力性を持たねばならない。

大量破壊兵器（WMD）は米国、同盟国、提携国を脅かす。北朝鮮は核兵器能力の進展を続け、長距離弾道ミサイルの配備を続けている。同様に、イランは核兵器とWMD運搬能力を備えた弾道ミサイル技術を追求している。さらに、テロリストのネットワークも多様な標的に対して使用するためにこれらの兵器を求めている。全てが米国本土および同盟国、提携国に対する直接の脅威となる。

これらの地政学的変化と軍事的挑戦課題の複雑さのゆえに、とりわけ財政的不確定期においては、海洋軍種の大胆で革新的なアプローチが必要となる。このアプローチが要求するのは、米国の同盟国、提携国とのより深い協力関係と統合部隊の相互依存、各軍種がその独自の効果を最大限発揮するための他の軍種への計画的かつ選択的な依存と信頼である。

## セクション II

### 前方配備と提携関係

海軍部隊は安全保障環境を形成し、米国の決意を知らしめ、米国の国益を守るために前方で活動し、海洋公共財における航海の自由を防衛することにより地球規模での繁栄を促進する。米国の同盟国と提携国のネットワークを拡大し、それらの国々と連携して活動する米国の能力を改善することにより、海軍部隊は物品の自由な流通に基づく開放経済体制に必須の安全な環境を促進し、米国の天然資源を保護し、安定を促進し、紛争を阻止し、武力侵略に対処する。危機に際しては、前方配備された海軍部隊は米国の権益を防衛し、敵対行為を段階的に緩和し、紛争を米国から遠ざける即時選択肢を大統領に提供する。戦時にあつては、前方配備された海軍部隊は、後続部隊のためのアクセスと活動の自由を保持しながら戦う。

海軍の現在の予算案は、300隻以上の艦船を提供し、2020年までに「重要な場所に重要な時に」派遣できる艦船を、2014年の平均97隻を上回る約120隻の前方配備を可能にする。これは、グアム、日本、スペインなどの場所への海外前方配備海軍部隊、シンガポールなどの海外基地から展開する前方活動部隊、米国から輪番で展開される部隊を含んでいる。より効率的かつ効果的に前方配備を提供するために、我々は以下のように部隊の革新的な活用を採用する。

- 費用がかかる交代と展開を削減し、同時に戦域内プレゼンスを増強するために、海外での部隊前方配備を増やす。
- 効果的な海軍プレゼンス、戦略的機動力、即応性を増大させるため、同盟国および提携国と連携してグローバルに分散したネットワーク化された遠征部隊を提供する。
- 艦船全体の代わりに任務モジュールおよび積載貨物だけ入れ替えることを可能にするモジュール式で設計されたプラットフォームを活用し、時間と資金を節約する。将来フリゲート艦（FF）として再設計される沿岸戦闘艦はこの能力の例である。
- 海軍能力を具体的な地域環境に合わせて調整し、それにより我々の資産が最も必要とされる場所に配置されるよう保証する適応性をもつ部隊パッケージを活用する方式を拡大する。例えば、我々は米南方軍の責任地域における提携国との年次多国間海上演習であるUNITASに参加するための海軍能力を調整し、より能力を備えた海兵遠征部隊

(MEU) を搭載した水陸両用即応群 (ARG) と空母打撃群 (CSG) を他の戦域におけるもっと複雑な任務に活用できるようにしている。

- 将来の危機に対応する同盟国と提携国の能力を構築する持続的関与を可能にする適応力のある部隊パッケージを利用する。



「安全保障環境は変化し、戦術やテクニック・手順も変化し、脅威も変化するが、変わらないものは国家の危機対応部隊としてのいつも認められる我々の役割である」。

—ダンフォード大将

2011年1月初め、第26海兵遠征部隊 (MEU) はアラビア海のUSSキアサージ水陸両用即応群 (ARG) に乗って出航し、限りなき自由作戦を支援するためアフガニスタンに部隊の地上戦闘隊を上陸させるよう指示を受けた。その暫く後、北アフリカで“アラブの春”の騒乱が始まり、ARG/MEUの一部が地中海への展開を指示された。MEUの地上戦闘能力を再構成するため、部隊はキャンプ・レジューンの第2海兵師団から航空輸送された400人の海兵隊員を組み込むに必要な期間クレタ島に立ち寄った。部隊はそれからオデッセイの夜明け作戦に参加するためリビア沖に駐留し、カダフィ政権に対する空爆を実施し、撃退された米空軍F15Eストライクイーグルの操縦士の救出に成功した。これらの出来事は海軍・海兵隊チームの特有の作戦上の柔軟性と戦略流動性を示すものである。

各地域において、我々は能力と容量を任務の要求に整合させる部隊活用の構成概念を忠実に実行する。

### インド-アジア-太平洋

戦略的な注目がインド-アジア-太平洋に移行するに伴い、同地域に配置される艦船、航空機、海兵隊部隊の数を増やす。2020年までに、海軍艦船と航空機の約60%が同地域に配備される。海軍は日本に空母打撃群、空母航空団、水陸両用即応群を維持し、グアムにすでに配備されている部隊に攻撃用潜水艦1隻を追加し、永続的な地域プレゼンスのためにシンガポールに前方配備された沿岸戦闘艦 (LCS) の数を4隻に増やすなどの費用対効果の高いアプローチを実施する。さらに海軍は、多目的弾道ミサイル防衛能力を備えた艦船、潜水艦、情報監視偵察 (ISR) 機を含む最も高度な戦闘プラットフォームを地域に提供する。技術的に最も高度な水上戦闘艦であるズムワルト級駆逐艦や、F35CライトニングIIおよびMQ-4C トライトン高耐久無人機も地域に展開される。海兵隊は、通常兵力の抑止力を提供し、安全保障協力を実施し、危機と紛争に対応し、作戦計画に対する遠征支援を提供するために、地域に海兵遠



征軍を維持し、オーストラリアに海兵ローテーション部隊を展開し、他の陸上および海上配備部隊を活用する。MV 22 オスプレイ、CH-53K キング・スタリオン、F 35 B ライトニング II、水陸両用強襲車などの新しい資産は、この広大な地域に要求される移動可能距離の増大と改善された能力を付与する。海軍と海兵隊はインド・アジア太平洋全域で海岸地帯の多目的水陸両用艦、再構成可能プラットフォーム、および遠征拠点からこれらの部隊を活用する。例えば、海兵隊は現在、提携国の治安部隊と共同訓練するために、乾貨物・弾薬（T-AKE）艦や統合高速輸送艦（JHSV）などの海上輸送司令部の艦船に搭乗させて部隊を展開している。海兵隊は最近、西太平洋にMV 22 飛行中隊を前方配備し、日本で初の恒久的に前方配備される第5世代の打撃戦闘機を展開する。

沿岸警備隊は、米国の領海および排他的経済水域（EEZ）を保護するため、ナショナル・セキュリティ・カッターと展開可能特殊機能部隊を海軍・海兵隊とともに、回転方式で展開する。それに加えて、沿岸警備隊は、熟練した海上統治部隊を構築し、海上安全警備での協力を強化し、違法・無報告・無規制漁業を削減するために、地域の提携国および海軍と協力して、統合・連合パトロール、乗船交流、多国間演習を活用する。これらの多国間努力は、オセアニア海上保安構想と北太平洋沿岸警備フォーラムへの参加を通じて促進されている。

インド・アジア太平洋における前方配備海軍のプレゼンスの拡大は戦域内の戦闘優位を補強し、改善された相互運用性、より統合された作戦、一層複雑化する演習・訓練を通じて同盟強化の基盤を提供する。さらにそれは海上保安活動の拡大、海洋領域認識の共有、および多国間関与の長期化を通じて提携関係を強化する。我々の目標は、地域の海上保安上の挑戦課題に対処する地域的能力を構築・持続することである。地域諸国間、特に東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟国間の安全保障協力と多国間メカニズムを深めることにより、米国の海軍部隊はグローバル経済制度の長期的な安全保障に貢献する。



「日常的な前方配備と危機対応を行う同じ部隊が、統合軍に保証されたアクセスを提供するために迅速かつシームレスに移行可能である」。

—ダンフォード大尉

海軍・海兵隊チーム、特に前方配備されたチームにより提供される水陸両用能力は軍事作戦の全範囲にわたる任務のための海外アクセスを可能にする上で重要な役割を長年果たしてきた。例えば、2001年9月11日のテロ事件の後、海兵遠征部隊（MEU）を搭載した水陸両用即応群（ARG）2群が他の場所での定常活動から北アラビア海に転用された。同即応群は航空搬入された指揮隊の追加により、米第5艦隊内の任務部隊58を形成し、追加統合部隊導入のための兵舎を確保するために350マイル離れた内陸部に向け上陸攻撃を実行した。2010年8月に、海軍・海兵隊チームは再び、同地域でARG/MEU2群を編成したが、その目的はパキスタンでの集中豪雨により引き起こされた洪水に対処する人道援助作戦を実行することであった。

沿岸警備隊は、提携国の海上統治能力を構築し、同時に海上保安、インフラ防護、船舶安全検査などの活動を行う。沿岸警備隊巡視船および海軍・同盟国艦船搭載の展開可能特殊機能部隊は非合法の海上活動に対処する。

## 中東

中東は米国および同盟国にとって戦略的に重要である。我々は紛争を抑止し、同盟国・提携国を自信を与え、危機に対応するために信頼できる戦闘力を中東で維持するために、現在の30隻から2020年には約40隻艦船まで地域におけるプレゼンスを増大させる。

海軍・海兵隊は同地域への航空団を搭載した空母打撃群と海兵遠征部隊（MEU）を搭載した水陸両用即応群のローテーション展開を継続する。さらに、海兵隊は安全保障協力と危機対応のための活動半径を最大限拡大するために、将官主導の海兵隊空陸任務部隊（MAGTF）指揮隊およびMV22、KC130ハーキュリーズ大型輸送機を装備した特殊目的海兵隊空陸任務部隊（SPMAGTF）を含む継続的プレゼンスを中東で維持する。海軍・海兵隊は、安全保障協力、テロ対策、遠征作戦、掃海活動および特殊作戦部隊を支援するために、アラビア湾で司令部施設を維持し、同湾での艦船展開を継続し、沿岸戦闘艦、統合高速輸送艦、水上艦前方中継基地（AFSB）などの新型多目的艦を活用する。

中東における持続的な海軍プレゼンスは、地元と地域の統治を脅かすテロリスト・ネットワークを阻止することにより、米国本土を保護し地域安定を促進する。それはまた、大量破壊兵器の拡散と闘い、潜在的な敵がホルムズ海峡、スエズ海峡を通過するエネルギーの流れを脅かすことを抑止する。重要な提携関係、とりわけ湾岸協力会議の能力と容量を強化し、地域全体の加盟国およびその他の海軍との相互運用性を我々は促進する。

## 欧州

NATOと欧州同盟国・提携国は、欧州内および世界中の米国の安全保障利益にとって重要である。我々の同盟国との相互運用性は優先事項であり、それは英国王室海軍の参謀が搭乗した空母打撃群の9ヶ月にわたる協調展開と米国およびフランスの空母打撃群共同作戦に示されている。欧州における我々の海軍基地は欧州やその隣接地域で活動する海軍部隊を持続させる上で根本的に重要である。欧州で活動している海軍部隊は、欧州、アフリカ、レバント地域、南西アジアにおいて迅速かつ柔軟な海上作戦を実施する上で理想的な位置に配置されている。

我々がインド・アジア太平洋へのバランスを取り直すことを進める中で、アフリカの角周辺海域で海賊行為を削減してきた海洋の盾作戦のように、共通の海上安全保障の挑戦課題に対処する上で欧州・NATOの永続的な戦略重要性と貢献を、認識し続けている。NATOに対する我々の強い決意を強調するものとして、海軍は常設NATO海上機雷対策グループへの支援を続け、欧州において米同盟国・提携国を弾道ミサイルの脅威から保護する陸上・水上のイージス弾道ミサイル防衛（BMD）など同盟に独自の貢献を行う部隊を提供している。2015年



「人々はなぜ沿岸警備隊が米国から遠く離れた場所で漁業法を執行するために外国政府と提携するのかと尋ねる。その答は、多くの提携国の経済安全保障が微妙な魚資源に大きく依存しており、これが地域の安定と安全保障を支えているからだ」。

—ズクント大将

違法・無報告・無規制漁業は年間100億ドルから200億ドルの損失を世界経済にもたらしている。米国は積極的に国際漁業管理機関に採択される海上統治措置を開発し実施している。持続的な漁種資源や他の海洋生物資源を保全する国際能力を強化する我々の努力は、地球規模の経済安全保障を促進し、多様な課題に関する協力の場を構築し、国際緊張を軽減している。これは、米沿岸警備隊とシエラレオネ法執行機関員が漁船の臨検を実施している場面で、世界中の海上部隊との合同訓練と支援の有用性を示している。

未までにスペインに4隻の多目的BMD機能装備駆逐艦を配備することも、この中に含まれている。これらの艦船は、地中海で安全保障協力、海上保安、危機対応任務のための前方プレゼンスを提供する。NATOとの海上での統合の継続は長期的な地域安全保障と安定を保証するために必要である。

この地域における一時的な水陸両用即応群・海兵遠征部隊（ARG/MEU）のプレゼンスを補強するために、海兵隊は単独展開あるいはより大きな複合部隊の一部としての展開用に訓練された陸上配備・海上配備の特殊目的海兵隊空陸任務部隊（SPMAGTF）を提供する。この

ようなSPMAGTFの1つは2013年に欧州およびアフリカでの任務を支援するために立ち上げられた。海兵隊は危機対応向けの即応性を維持しつつ、安全保障協力のためにこのような任務に対して組織された部隊を活用し続ける。

## アフリカ

我々はアフリカにおける海軍プレゼンスとして、海軍軍人、海兵隊員、沿岸警備隊員が搭乗している統合高速輸送艦あるいは水上艦前方中継基地などの適応力をもつ部隊パッケージを提供する。建設大隊（シービーズ）、爆弾処理隊、海軍SEAL部隊、その他の海軍特殊作戦部隊や沿岸警備隊員・海兵隊員は提携国治安部隊とともに、アフリカ海上法執行パートナーシップ、アフリカ・パートナーシップ・ステーションなどの構想を通じて、テロリズム、不法密輸、天然資源の違法利用と闘い続ける。西アフリカ諸国は、テロリスト組織と繋がりがある不法密輸活動と闘うために、海上部隊に大きく依存している。例えば、海洋軍種は、情報共有、演習、共同パトロールを通じて海上安全保障の挑戦課題への長期的な解決策を見出すために、ギニア湾で提携国と協力し続ける。海軍は、テロ対策、



**「沿岸警備隊は、接受国との共同作戦を通じて海上統治、法の支配、地球規模のリーダーシップを我々が企画することを可能にする60カ国以上の外国政府との二国間協定を結んでいる」。**

—ズクント大尉

南方官庁合同統合任務部隊（JIATF-S）は米国に近い地域における海軍協力の好例である。この任務部隊は海軍、沿岸警備隊、民生部門法執行機関の人員を結集したもので、その全ての機関が中南米全域での麻薬密輸を削減するために多国間提携国と協力している。2013年には、西半球および欧州の14カ国が約総額30億ドルにのぼる131メートルトン以上のコカインを差し押さえるのを助けた。これはマイアミビーチの沿岸警備隊員が何百万ドル分にもなる押収された麻薬を荷台から降ろしている場面である。

海上安全保障および情報・監視・偵察活動を支援するために、アフリカ大陸に遠征基地を維持する。ARG/MEU、SPMAGTF、海兵隊遠征旅団(MEB)などの前方配備・緊急展開部隊は、提携関係を強化し、危機対応を支援する準備を維持し、地域における米国民および米国民益を保護するために、演習と訓練に関与する。

我々は、危機に対応し、それぞれの国における安定に貢献するために、欧州およびアフリカの提携国や地域機関との連携を続ける。

## 西半球

我々は西半球で、米国本土を保護し、不法密輸活動および超国家犯罪組織に対処するための提携関係と能力を強化する。沿岸警備隊の資本増強努力は、特にカリブ海、メキシコ湾、東太平洋における脅威に対抗するため、オフショア・パトロール・カッター、C27Jスパルタン海洋哨戒機を含む高能力の多目的艦船と航空機から構成される艦隊を生み出す。海軍は、地域安全保障・協力を発展させるための統合と諸職種協同軍事作戦を支援し官庁合同努力を強化するために、キューバのグアンタナモ湾の海軍基地を保持する。海兵隊は、地域提携国との相互運用性を高め、超国家犯罪組織への阻止能力を強化する安全保障協力活動を支援するために、任務部隊あるいはSPMAGTFを活用する。人道援助・災害対応任務を実施するために、沿岸戦闘艦、統合高速輸送艦、水上艦前方中継基地、病院船、海上輸送司令部のその他の艦船および沿岸警備隊プラットフォームを含む水陸両用艦船と他のプラットフォームを活用する。さらに、P-8Aポセイドンや無人機などの海洋哨戒機を活用する。他の艦船や航空機は、繰り返し行われる軍対軍の関与、戦域安全保障協力演習、その他の任務のために、定期的プレゼンスを提供する。

## 北極および南極

予想される海上活動の増大に対応して、海洋軍種は北極へのアクセスとプレゼンスの必要性を評価し、海洋領域認識を改善し、海上安全と地域安全保障を強化するための北極提携国との協力を追求する。このことは、氷に覆われ、氷に妨げられた水域を含む北極圏で活動する能力を我々が一層開発することを要求する。沿岸警備隊は、指揮統制と空中監視のための調整された季節的プレゼンスを提供するためのナショナル・セキュリティー・カッターの多目的能力を適用し、北極および南極の両方での作戦を支援する新型大型の砕氷能力用設計プロセスを開始す

る。沿岸警備隊はまた、北極評議会の加盟 8 カ国に開放される海上支援・調整・作戦グループの形成を追求する。このグループの目的は、多国間探索救助作戦の調整、訓練演習、海上交通管理、災害対応および情報共有である。

## セクション III

### 国家安全保障を支援する海軍力

海洋軍種は、米国本土を保護し、地球規模での安全保障を構築し、戦力を投射し、決定的に勝利するために、世界の海洋で活動する。地球規模での海洋で機動活動し、他国が米国の国益に敵対して海洋を使用することを防止する能力は、米国の戦略優位の要因である。海軍部隊の卓越した打撃能力である航空団搭載空母打撃群、および海兵隊員が搭乗している水陸両用任務部隊は、水上戦闘艦、潜水艦・沿岸警備隊警備艇とともに、以下の海軍任務を支援するべく海洋から沿岸帯に至る柔軟かつ持続可能な選択肢を提供する。その任務とは、米国本土の防衛、紛争抑止、危機対応、武力侵略の撃退、海洋共同財産の保護、提携関係強化、人道援助・災害対応の提供である。

我々は5つの必須機能、すなわち全領域アクセス、抑止、制海権、戦力投射、海上保安を通じて、これらの任務を完遂するために海軍部隊を組織し、訓練し、装備する。米国の海軍力の総和として、諸職種協同のアプローチによりこれらの機能を活用し、統合軍および米国のために独特の比較優位性を提供する。

#### 全領域へのアクセス

全領域アクセスは、紛争地域において、効果的に活動するために十分な活動の自由をもって軍事力を投射する能力である。現在の安全保障環境においては、そのアクセスはますます国家・非国家活動家による競争に曝されており、これらの活動家は独自の高度な接近阻止領域拒否戦略をもって米国の最も高度な部隊や兵器体系ですら危険に曝することができる。

海軍・海兵隊チームの制海権および戦力投射能力との調整によって活用されることで、全領域アクセスは統合軍海軍構成部隊指揮官が以下の要素を通じて統合軍に領域横断的能力の提供を可能にする。

- 戦場認識。これは、沿岸帯の内陸部分を含む海洋領域および情報環境の持続的な監視、敵の能力と意図に関する洞察力のある知識で、敵がいつ、どこで、どのように活動するかについての理解、米軍部隊が活動する環境の包括的な掌握を提供する。

- 確信ある指揮統制。これは、競争環境における部隊の指揮統制のための強力で弾力的、かつ機敏なネットワークを維持する能力を指揮官に提供する。
- サイバー空間作戦活動では、防御および攻撃措置の双方を含めて、データ、ネットワーク、ネット中心能力、その他の特定システムの保護といった友軍のサイバー空間能力を活用する手腕を維持し、サイバー空間にてあるいはサイバー空間を通じて武力の適用により戦力を投射する。
- 電磁操作戦（EMW）。戦闘優位を作り出す高度な非運動能力を備えた宇宙空間、サイバ

ー空間、電磁スペクトルにおける艦隊作戦活動を融合した比較的新しい概念である。

- 統合火力。これは、敵の能力と脆弱性を完全に利用し、必要な場合はそれを攻撃するための拡大範囲の運動・非運動の選択肢を指揮官に提供する。

これらの要素が同期化される時に領域横断的な相乗効果が達成され、接近阻止領域拒否戦略を撃退するための全領域における多様な選択肢を、統合軍の指揮官に提供する。これらの選択肢には、脅威の各々にますます高価になる運動兵器で対処するのではなく、軍隊全体における調整された非運動能力および標的技術に対する対抗措置の強調が含まれる。要約すると、個別の兵器に対抗するのではなく、システムを撃退する我々の攻撃能力において、もっと包括的になる必要がある。

例えば、優れた戦場認識を活用することにより、攻撃が開始される前に脅威を撃退する統合火力アプローチでサイバー能力とEMW能力を活用し、より効果的に対艦弾道



「我々はどんな領域でもアクセスの達成が可能でなければならない。それは、空海陸、宇宙空間、サイバー空間の領域で活動を計画し調整する方法を変更し、アクセスと活動の自由を保証する適正な能力の組み合わせを識別し、活用することを意味する。」

— グリーナート海軍大将

潜在的な敵による進化する接近阻止領域拒否能力のゆえに、我々の戦闘能力をプラットフォーム、センサー、兵器、システムの一層の統合と相互運用性の方向に向ける必要がある。これらの構想は、敵航空機およびミサイルに対する防衛のための海軍統合射撃統制対空（NIFC-CA）プログラムなどの新たな能力を中心に構築されている。このプログラムは、長距離にある脅威を撃退するために偵察、戦闘機、艦載射撃統制システムを統合する。これは、E-2Dホークアイ艦載機がUSSドワイト・D・アイゼンハワー（CVN69）の飛行甲板に着陸している場面だが、同機はNIFC-CAの要素を統合している。



ミサイルと巡航ミサイルの脅威を撃退することができる。

全領域でのアクセス保証は、平時に同盟国・提携国の海軍部隊および海上部隊との日常的な地域作戦を通じて始まる。これらの努力は関係を強化し、能力や容量を構築し、海洋環境でのアクセスにつながる。海軍部隊が平時にアクセスの条件を設定すると、紛争時に全領域アクセスをより容易に達成するための同盟国・提携国との相互運用性を強化することになる。

海軍部隊は全領域アクセスを統合作戦の一環として達成し、平時における国際関係と抑止力を改善し、戦時における敵に対抗する成功を可能にする。この機能は全ての海軍任務を支援する。

## 抑止力

我々は、潜在的な敵に勝利できないと確信させるか、武力侵略の代価が大きすぎて容認できないと確信させることにより、抑止力を達成する。

戦略核抑止力は、米国に確証的で精密な核兵器による第2次攻撃能力を提供する海軍の弾道ミサイル潜水艦（SSBN）により保証されている。SSBNは常時海にあり、探知されることなくパトロールを行い、通信を継続し、即時対応能力を備えている。米国の三元戦略核戦力の中で最も安全で生存性が高い要素として、米国の海洋配備核戦力が最高の即応性と全面的な資源装備の状況で維持されることが絶対必要である。

通常兵器による抑止力は、航空団を搭載した空母打撃群、精密攻撃兵器を装備した水上・水中戦闘艦、水陸両用艦、海上事前配備、前方基地の多様な組み合わせから展開される海兵遠征軍（MEF）、海兵遠征旅団、海兵遠征部隊の拡張可能、展開可能な遠征戦闘力を通して、海軍部隊により提供される。沿



*「海軍能力の中心は空母打撃群と水陸両用即応群である。．．．これらの艦船、航空機、海軍軍人、海兵隊員は第2次世界大戦以降、武力侵攻を抑止し撃退してきたし、将来もずっとそうし続けるだろう。」*

—グリーンハート海軍大将

海軍航空隊は戦力を投射し武力侵略を抑止し撃退する我々の能力にとって必須である。航空母艦、水陸両用艦、軍事施設から発進するヘリコプター、ならびに固定翼機、巡洋艦、駆逐艦から発進するヘリコプターは、高度な無人機に補助され、最近の作戦で重要な役割を果たしてきたし、与えられるいかなる任務も果たす用意がある。ここでは、F/A-18Eスーパーホーネット戦闘機が太平洋の航空母艦USSジョン・C・ステニス（CVN74）から発進する場面が示されている。

岸警備隊は、米国の港湾、国内水路、沿岸、沖合でプレゼンスを継続し、海上の脅威に対する追加の防衛層を提供する。これらの海軍部隊は、多目的弾道ミサイル防衛能力を備えた艦船とともに、機敏、柔軟、拡張可能な広範囲にわたる信頼できる抑止の選択肢を提供する。海軍部隊はまた、抑止に失敗した場合、米国本土および同盟国を防衛するために迅速に対応するよう配置されている。

この機能は、米国本土を防衛し、紛争を抑止し、提携関係を強化する海軍任務を支援する。

## **制海権**

制海権は、海軍部隊が地域の海上優越性を確立し、同時に敵に同じ能力を否定することを可能にする。前方海軍部隊は、敵海軍部隊の破壊、敵海上通商の抑制、および後続部隊の到着を円滑化する船積港と陸揚げ港を含めての主要な海上交通路の保護のための全範囲の階層能力を活用する。制海権の必須要素は、水上戦、水中戦、打撃戦、機雷戦、航空およびミサイル防衛、海洋領域認識、情報・監視・偵察である。

制海権確立には、脅威を無効にする、あるいは沿岸帯の内陸部分の地形を制圧するために内陸への戦力の投射が必要になる可能性がある。同様に、戦力を内陸に投射し持続するには、隣接する海域や空域における制海権確立が必要になる。このため、制海権と戦力投射は相互に補強しあうものである。この機能は、米国本土を防衛し、武力侵略を撃退し、提携関係を強化する海軍任務を支援する。

## **戦力投射**

広い意味では、戦力投射は、危機に対応し、抑止に貢献し、地域安定を強化するために、国家が外交、情報、軍事、経済という国力の要素の全部あるいは一部を適用する能力である。

海軍の戦力投射は、内陸の標的に対する通常兵器による攻撃、敵部隊に対する運動攻撃と非運動射撃を統合した攻撃、前進部隊作戦、急襲、艦船の対目標機動活動および内陸部隊への海上からの射撃支援から海軍特殊戦・特殊作戦部隊により実施される任務に至るまで全ての形態の水陸両用作戦を含む。航空母艦、水上戦闘艦、その他の艦船により主導される海軍攻撃部隊と潜水艦は、長距離の海洋配備の攻撃能力を提供する。海軍遠征部隊は、敵を妨害し敵部隊を破壊し、統合作戦を支援する地形制圧のために内陸深部に戦力を投射できる。

さらに戦力投射は、海上基盤の能力に対する我々の手腕、統合軍空中給油とともに海上輸送司令部の戦略海上輸送と兵站支援を活用する手腕に依存しており、さらに、部隊を保護し、職務を遂行し、持続させる我々の基地・施設の地球規模の戦略的配置にも依存している。海軍兵站統合は、海上からの活動を行う部隊を持続させる我々の手腕を可能にする鍵である。歴史的に、遠隔地の作戦を持続する能力が海軍の戦力投射の基礎の役割を果たしてきた。

さらに海軍の戦力投射能力は、2010年ハイチ地震、2011年の日本での津波、2013年のフィリピンでの台風で示されたように、人道援助と災害対応という形態の“スマートパワー”任務の他の要素を円滑化させる。前方配備海軍部隊は、重要な地域における災害に迅速に対応する位置にあり、同盟国・提携国と協力して、損傷を受けているとか、接近不可能な港湾や内陸部の飛行場に頼らずに、人命を救助し、即時に救援を提供し、効果的な民生対応の条件を設定する用意がある。この機能は、米国本土を防衛し、危機に対応し、紛争を抑止し、武力侵略を撃退し、人道援助と災害対応を提供する海軍任務を支援する。



「沿岸警備隊の膨大な種類の権限は独特であるが、つまり我々は規制当局であり、連邦法執行機関であり、米国の5つの軍種の1つでもある。我々は、その権限および能力を姉妹軍種の重要な能力と結合させることにより、任務の卓越性を持続する」。

—ズクント大将

国際海事機関などの多国間フォーラムおよび機関への米国の参加は、商業船舶や港湾の保安、海上での安全、海賊対策、海洋環境および資源の保護に関する国際基準の改善につながる。これは、米沿岸警備隊と中国海監総隊の人員が公海での流し網漁の疑いをかけられた国籍不明の船舶に乗り込んでいる場面。国際的に非難されているこの違法行為は、海洋の生態系と漁業資源に依存している国々の食糧安全保障・経済安全保障に対する重大な脅威となる。

## 海上保安

海上保安は、米国の主権と海洋資源を保護し、自由で開放された海上通商を支援し、兵器拡散、テロリズム、超国家犯罪、海賊行為、海洋環境の違法な利用と不法海上移民に対応する。

海軍部隊は、海洋公共財および米国への海上進入路における海上保安を提供する。米国は国の450万平方マイルの排他的経済水域（EEZ）における重要鉱物資源と海洋資源を管理し、より広大な西半球通過帯において国際的に認定された探索救助の責任を維持している。EEZ内外で活動する沿岸警備隊、海軍の艦船と航空機は、海洋領域認識の開発、効果的な海上統治の確立、米国本土の保護といった米国家の階層防衛の前線である。

海上保安は、通行、貿易、および天然資源追求のための海洋公共財における行動基準を管理する法律、規則、規範を守るため米国の努力を支援する。とりわけ重要なのは、主権に対する軍事的・非軍事的な国家支援の挑戦に対処するための他の沿岸警備隊との協力である。

我々は、不法な貨物や人間の運搬が疑われる船舶の位置確認・監視により、海上保安活動を実施する。必要とあらば、米国法あるいは国際法に基づく制裁を支援するため、これらの船舶を阻止し臨検する。沿岸警備隊の独特の法的権限下で活動する場合、海軍部隊は、特に西半球において、違法麻薬取引、人身売買、天然資源の違法利用と闘う。海上保安活動はさらに、米国の幅広い海上統治活動を支援している。これらの活動には、北極・南極において氷に覆われ、氷に妨げられた水域へのアクセスを保証することも含まれる。

全国家が海上保安の集団利益を共有するため、海上保安は同盟国・提携国との協力拡大の有望な分野である。多国間演習・訓練を通じて、我々は超国家組織犯罪と闘い、漁業や海上通商を保護するための海上保安部隊支援を行う。この機能は、米国本土を防衛し、海洋公共財を保護し、提携関係を強化する海軍任務を支援する。

## セクション IV

### 部隊構成：未来の部隊の構築

この緊縮財政の時代にあって、我々の部隊は、大規模かつ多段階の作戦で1つの地域的な敵を撃退し、同時に異なる地域の別の侵略者の目標達成を不可能にするか、あるいは容認できない代価の強要を可能にするといった規模になっている。さらにこの部隊規模の構成は、地球規模のプレゼンス要件に対する能力と容量を保証している。この達成のために、海軍と海兵隊は、航空母艦11隻、弾道ミサイル搭載潜水艦14隻（オハイオ代替プログラムSSBN(X)12隻に置き換え）、および水陸両用艦33隻を含む300隻以上の艦船から構成される艦隊を維持する必要がある、同時に沿岸警備隊はナショナル・セキュリティー・カッター、沖合巡視艇、高速対応警備艇91隻の艦隊を維持する必要がある。

追加の予算削減あるいは強制歳出削減による一層小規模な軍隊は、困難な選択を我々に要求することになる。一部の任務や機能に対するリスクのレベルが増大し、前方プレゼンスが減少し、一部の地域におけるフットプリントが縮小する状況で、我々はこの海洋戦略の遂行を余儀なくされだろう。このような削減は戦闘における優位性も制限する。具体的には、予算が強制歳出削減の水準に戻る場合、危機・有事に活用できる海軍の増派態勢にある空母攻撃群および水陸両用即応群は要件を満たすには不十分であり、適正な前方プレゼンスを維持する海軍の手腕は危険に曝される。

未来の部隊構築において、即応性、能力、容量への投資の均衡を取りながら、我々は組織変更を行い慎重なリスクを負う。軍人への強い決意を維持し、新しい作戦概念を採用し、革新的な能力を開発する。未来の部隊を開発する中で、軍事行動の範囲、エネルギー安全保障およびエネルギー独立性を強化するために、海軍任務全体を通じてエネルギーを絶対必要な資源として我々は重要視する。以下の実施原則は、海兵隊の「遠征軍21」および「海兵遠征旅団作戦概念」と機密補足文書などの軍種固有の文書とともに、能力がありかつ戦闘準備が整っている海軍部隊であり続けることを保証する我々の努力に指針を与えるものである。

#### 柔軟で機敏で即応性のある部隊

未来の部隊を設計するに当たって、我々は以下のことを行う。

- 我々の形成および対応部隊としての前方展開海軍部隊に依存しつつ、戦闘準備が整い、危機、主要な有事および米国本土への脅威に迅速に対応する用意がある増派態勢にある海軍部隊の適正な一覧表を保全する。この均衡を維持することにより、我々においては将来の紛争に対する準備をしながら、現在の危機に対応することが可能になる。
- 経験、背景、思考において多様性があり、個人的にも職業的にも準備が整い、兵器やシステムの運用に熟達した海軍軍人、海兵隊員、沿岸警備隊員から構成される強い動機と関連性をもつ未来の部隊を開発する。
- 戦闘用に設計された潜水艦、航空母艦、水陸両用艦、および水上戦闘艦からなる均衡の取れた部隊を開発する。これらの艦船は、統合高速輸送艦、ナショナル・セキュリティー・カッター、さらに大型中速自走搭載・自走揚陸（LMSR）対応型貨物船、乾貨物・弾薬（T-AKE）艦、機動揚陸プラットフォーム（MLP）、水上艦前方中継基地（AFSB）を含む補助艦などの再編成可能なプラットフォームにより補完されねばならない。
- 隙間や継目をなくし、不必要な重複を減らし、接近阻止領域拒否の脅威に対抗するための作戦概念開発における空軍・陸軍との相乗効果を増大する構想を通じて、統合軍の相互依存性を改善する。我々は単独で進むことはできない。例えば、海軍部隊は空軍の空中給油と地球規模の情報・監視・偵察（ISR）能力に大きく依存している。同様に、陸軍の地球規模で展開可能なターミナル段階高高度地域防衛（THAAD）システムとパトリオット・ミサイル発射台、海軍の統合航空ミサイル防衛（IAMD）システムはそれぞれの強力な能力により互いを補完しあう。海軍艦船からの特殊作戦部隊の活用は統合軍の相互依存性のもう1つの例である。
- 予測可能な海軍部隊の活用モデル、海軍の最適化艦隊対応計画（OFRP）を実施するが、これは地球規模部隊管理（GFM）要件を満たすために作戦上の即応性と利用可能性を改善すべく展開前保守整備、訓練、検査計画を構造化するものである。
- システムのライフサイクル全体のコストを抑制することにより調達プロセスの全側面において値ごろ感を優先する。例えば、知的財産権の使用を改善し競争を増大させるためにオープンシステム・アーキテクチャ構想を拡大する。これは総所有コストを引き下げ、戦闘能力を改善し、持続可能な将来プログラムにつながる。
- 新しいセンサー、情報、兵站、兵器積載物を迅速にプラグインできる相互運用可能で適応可能なプラットフォームを設計するために米産業界パートナーと協力する。モジュール性が未来の部隊を定義する。
- 産業基盤の活力の保証のために調達と保守整備戦略を計画し、均衡をとる。

- 我々の到達力とエネルギー安全保障を強化する運転エネルギー能力を改善する。これらの措置は、展開されたエネルギー消費を改善する海兵隊構想の活用、バイオ燃料の開発、エネルギー効率を強調する他のプログラムを含むことになる。

## 人員

我々の正規軍および予備役の海軍軍人、海兵隊員、沿岸警備隊員および文民が最大の非対称的に優位であり続けることを保証するために、以下のことを行う。

- 従軍して最も大きな犠牲を払う兵員に対する米国の神聖な信頼を尊重することを保証するために、兵員の家族および負傷した海軍軍人、海兵隊員、沿岸警備隊員のニーズへの支援を持続する。
- 兵員、文民および家族の職業的・個人的生活の安全、安心、質を向上させる。我々の人員とその家族が集団として担っている特別な強い決意と犠牲の中にあって繁栄することができる環境を確立するために、司令部の説明責任を問いつける。
- 中核価値と精神を支えることにより海軍という職業への道徳的義務を体現し、人格と高潔さを備えた指導者としてその義務を果たし、自身の行動に対する説明責任について強固で不変な意識をもち自身の権限と責任を自信をもって行使する指導者を育成することにより、我々の戦闘における有益な点を促進する。
- 全志願制の軍隊を進化させ、21世紀の社会的、経済的現実と合致したより機敏で家族に優しい昇進の道を作り出す全体戦略で



*「緊縮予算と不確定性の時代において、我々は妥当な価格の保険証券のようなものだ」と信じる。歴史を見れば、その保険証券がないことの代価は明らかだ」。*

—ダンフォード大将

過去数年間の出来事は前方展開された遠征部隊の有用性を実証してきた。2013年に、安全保障協力と危機対応の能力を増強するために、米欧州軍および米アフリカ軍向けに特殊目的海兵隊空陸任務部隊・危機対応隊（SPMAGTF-CR）が組織された。2014年1月3日、スーダン南部での民族間暴力の結果として、SPMAGTF-CRの部隊が同国からの米国市民の非戦闘員避難作戦を実行した。上の写真は米海兵隊員がスーザン・D・ペイジ米大使を待機中の航空機に案内している場面である。将来、我々はSPMAGTF-CRを海上配備にし、その作戦上の柔軟性と到達力を向上させるつもりである。

海軍の総合戦力人事システムを近代化する。また、仕事能力の高い人員に対して選択と挑戦の市場を開発し、人材への投資を最大化することができない長期にわたる“昇進か脱落”の二者択一システムを排除する。

- 最新の技術と設計を提供するため調達、要件、プログラミング努力を統合する真の学習能力を創出し、結果的に人員の展開前に現実的なシミュレーションならびにライブで、仮想的、かつ建設的なシナリオを生み出す。展開後には、挑戦的な作戦環境で同盟国・提携国との強力な演習を通じて人員の技能をさらに磨く。
- 選別された予備役を戦略的に活用し、より適応力に富み機敏な戦士の育成のため差別化された才能を管理し、平時の作戦を支援し必須の増派能力を提供するためにより幅広い人口に軍役の機会を拡張することによって、総合戦力を最適化する。
- 海軍・海兵隊海軍委員会の再活性化、海軍参謀間や他の戦略的な思考の組織との相乗効果を創出するための海軍戦略事業の設立、および戦略思想家としての幹部の開発などの個別の軍種構想を通じて、戦略的思考と知的資本を養成する。
- 外国地域担当官（FAO）集団を拡大し権限を与え、FAOが常に国際提携関係を構築強化する用意ができており、統合、海上、連合作戦を可能にする重要な役割を果たせるよう保証する。

## 概念

我々は、軍種レベルの作戦演習・軍事訓練、統合概念技術実証、大規模な統合演習・連合演習を通じて新しい戦闘概念を開発、洗練、認証する。多様な海軍部隊と同盟国・提携国とのチームワーク、才能、教育、想像力を活用することにより、以下のことを行う。

- 国際公共財におけるアクセスと活動の自由を獲得し維持するために、統合作戦アクセス概念を支援する中で、将来の統合軍の作戦実施方法を説明する全幅の選択肢を提供する地域的および地球規模の戦力投射能力を開発する。
- 同盟国・提携国との安全保障協力を緊密化させることにより、地球規模の海軍ネットワークの概念を推進する。このため、以下のことを行う。
  - 同盟国・提携国の部隊を空母打撃群および水陸両用即応群の展開前訓練、即応性演習、展開に統合する協力的な展開構成を拡大する。



- 同盟国・提携国との間の戦闘効果を強化する。我々は、特にインド・アジア太平洋および欧州における水陸両用作戦での相互運用性の改善を含め、複雑性と包括性がますます増大する軍種、統合、同盟国間、諸職種協同の演習を通じて、これを完遂する。さらに、人員交流や諜報の共有を拡大し、かつ機密・非機密のネットワークの両方で共通の作戦図を創出する。
- 重複する主権、経済、安全保障、防衛および法執行の懸案を話し合うための地域・国際フォーラムを追求する。これは、合同作戦、情報交換、不法密輸活動、緊急対応、海上保安、漁種保護に関する多国間協力を促す。
- 現在の戦闘の組織化の方法を描写するため、海軍の訓練、戦術開発、作戦支援および評価を戦闘任務分野に整合するよう再編する。各々の戦闘集団において、海軍は高度な戦域レベル訓練を通じて戦術実施に責任をもつ戦闘開発センターを設立する。
- 沿岸環境においてより分散型の制海と戦力投射を実施する。これは、陸上の脅威を撃退し、敵が重要な地形を利用することを否定し、あるいは「遠征軍21」に説明しているように遠征前進基地および海上前哨基地を設立するための拡張可能な選択肢を提供するため、職務ごとに組織化して団結した水陸両用部隊に組み込まれる前方展開部隊と増派遠征部隊の活用を含む。我々は、再構成可能なプラットフォーム、より高度な海上配備概念、遠征分隊レベルまで包括する戦場認識を強化する技術を活用することにより、これを完遂する。
- 敵の脆弱性を標的にする戦術・テクニック・手順（TTP）を開発する。伝統的な運動的打撃と非運動的活動の間の適正な均衡を模索する。このことは、利用可能である場合には敵の破壊連鎖を妨害するためにより効率的でコストのかからない手段を選ぶことによって、弾薬庫の限られた資源容量を節約することになる。
- 運動的・非運動的手段の融合を通じて望まれる効果を達成するため、電磁操作戦、宇宙、サイバー作戦概念を開発し、進化させる。電磁・サイバー環境は現在軍事作戦にとって根本的で、かつ米国の国益にとっても絶対必要なものになっており、それを海、空、陸、宇宙空間と同等の戦闘領域として扱わなければならない。
- この脅威に対抗するためレーザー、高性能銃、遠隔操作“スマート”車両などの革新技術の使用を含めるよう小型船群対策TTPを進化させる。

## 能力

継続的な技術革新は戦闘方法に情報を提供し、投資方法を推進する。我々は、戦闘優位を保持・改善することを可能にする能力に資源を集中させる。我々は適時、現在・将来のプラットフォーム設計において、容量よりも能力を優先し、モジュール性とオープンアーキテクチャを強調する。

### 全領域へのアクセス

台頭する接近阻止領域拒否の挑戦に対応して、我々は以下のことを行う。

- 全ての戦闘領域において、必要な時と場所でアクセスを獲得し維持する能力を優先する。
- 情報が否定、あるいは情報の質が低下した環境において、効果的で自律的な作戦能力をもつ部隊を開発する。
- プラットフォーム、システム、情報技術ネットワークの調達と近代化に対処し、絶対必要な戦闘能力を保護するための品質保証プログラムを策定し、サイバープログラム・システムの即応性を持続するために共通の技術規格、認証、権限を確立することにより、サイバーセキュリティとその弾力性を拡張する。
- 敵の航空・ミサイル脅威を撃退するためのネットワーク化され統合された多次元的能力を開発する。射撃統制ネットワーク、高度電子戦アプリケーション、統合航空・ミサイル防衛能力の距離と容量を拡張する次世代の水平線越え地对空ミサイルの重要構成要素を進化させる。
- サイバー空間・電磁スペクトルにおける運動的・非運動的戦闘能力を統合することにより、我々のプラットフォーム積載量の使用を最適化する。これは、敵のネットワーク、センサー、兵器システムを利用し、妨害し、無効化し、あるいは破壊する最先端の指向性エネルギー兵器、標的を絞ったサイバー、およびEMW作戦を含む。
- 危機または有事に対応し、強襲進入作戦を遂行する部隊を指揮統制する海兵隊空陸任務部隊（MAGTF）の能力を強化する。
- 統合任務部隊と多国間任務部隊の指揮統制を実施する海兵遠征旅団を組織し装備し、海兵遠征軍がより大きな作戦に従事することを可能にし、水陸両用作戦で海軍と統合する。これは、部隊を迅速に展開し、部隊を結合させて、任務に合わせて格調する団結し機動性をもつ複合部隊を組織する能力を改善することを含む。
- 提携国との相互運用性を含め、競争的環境において海上から戦力を投射する作戦を指揮統制する能力を強化する。

- 第5世代の航空能力をMAGTFに統合し、この能力を、遠征前方基地および海上前哨基地からの展開を含め、海上および海岸配備の役割に前方展開する。

### 抑止力

核兵器や他の大量破壊兵器が米国や同盟国を脅かす限り、我々は安全、安心、信頼できる海洋配備の戦略的抑止力を提供する。海軍の最優先課題は、我が国の三元戦略核戦力の最も生存性の高い戦略核が、現存するSSBN戦力とオハイオ差替えプログラムを通じて全面的に資源提供を受け、即応態勢を維持するよう保証することである。この中には、集合的に生存性の改善と破壊力の増強を提供する国家指揮統制システム、水中プラットフォーム、発射システム、弾道ミサイル能力が含まれている。

海上からの通常兵器抑止力の選択肢を強化するために、長距離精密攻撃能力を備えた次世代の航空母艦、艦船、潜水艦、航空機を配備し、将来の遠征部隊への作戦上のアクセスを改善する。

### 制海権と戦力投射

武力侵略を撃退し、危機に対応し、提携関係を強化する手腕を持続するために、我々は以下のことを行う。

- 特に競争の激しい環境において、水中支配を維持する海軍能力を向上させる。固定式・移動式海中センサーの改善を継続し、同時に艦船と航空機搭載の高度多機能センサーおよび防護システムを展開し、高度対潜水艦戦能力を提供し、無人潜水艇を開発する。
- 人間の耐久力の限界を超え、かつ競争が激しく危険の高い環境での作戦手腕を改善する、無人システムの開発・統合を継続する。この中には、航空、水上、海中、陸上配備の応用を含む。
- ステルス機能力を補完する長距離スタンドオフ兵器の開発を優先する。これは、信頼できる航空、地上、潜水艦発射攻撃を行うために、遠隔距離および競争の激しい環境における標的と交戦する手腕を含む。
- 接近阻止領域拒否の脅威がある環境において、海軍作戦を強化する簡素な遠征基地を占拠、設置、持続、防護する能力を改善する。
- レーダー信号の低減、より大きなスタンドオフ距離、および速度と容積の増大を有する、沿岸帯における揚陸艇、水陸両用車、小型機、多目的航空プラットフォームの組み合わせ

を含む連結要素の交戦能力を開発する。このためには、水陸両用攻撃用の水上高速選択肢の継続的な研究開発が必要である。

- 効率のより高い海上発電システムと小型化、自動化、推進、素材、製造の新しい技術を活用する。これらの能力はエネルギー消費を削減し、前方配備部隊をよりよく持続することを可能にし、同時に指向性エネルギー・システムおよび電磁レールガンなどの新しい兵器にも対応する。
- 指向性エネルギー兵器や電磁レールガンなどの代替兵器システムを開発する。指向性エネルギー兵器は光速、かつ極めて高精度で脅威に対抗することができ、弾倉も無制限である。レールガンは、精密な海軍水上艦射撃支援、陸上攻撃、より遠距離から敵艦を阻止する艦船防衛を提供する。
- 革新的な代替エネルギー源および効率的な技術開発を継続する。例えば、ハイブリッド発電装置は現在使用されており、水上艦部隊の駐屯時間と作戦活動への稼働可能時間を増加させている。

## 海上保安

海洋領域におけるテロリズム、不法密輸活動、海賊行為、航行の自由への脅威と闘うために、我々は以下のことを行う。

- 地球規模の海洋領域認識を改善するために、統合された海上探知、監視、情報における我々の能力を、同盟国・提携国の能力とともに、増大させる。このためには、現在義務付けられている重量が 300 トン以下の船舶に対するより厳格な自動識別システムの報告要件を模索し、小型船舶の脅威に対する効果を強化する革新的な技術を展開する必要がある。
- 米国に向けて航海する商業船舶および貨物の完全性と合法性をさらに保証するために、国際港湾保安プログラムを強化する。
- 競争の激しい環境で船舶への乗船、臨検、搜索、差押えを行う相互運用性と能力を強化させる。
- 制海権と海上保安能力を最大化するため、国家艦船政策に従って、海軍および沿岸警備隊の艦船、航空機、海岸施設間の相互運用性を改善する。
- 対外有償軍事援助および融資による訓練、演習、能力提供を通じて、同盟国・提携国を支援し、それらの諸国の海上保安上の挑戦課題に対処する能力を増大させる。

組織変革、均衡の取れた投資、兵員を育成するコミットメントを通じて、能力を備え戦闘準備が整った未来の部隊を我々は構築する。

## 結論

米国は国家安全保障目標の追求において、海洋軍種をますます活用することになるだろう。この騒乱に満ちた世界で、海洋軍種は米国に、海洋の自由を持続し、危機に迅速に対応し、武力侵略を阻止し撃退する信頼でき柔軟かつ拡張可能な選択肢を提供する。この戦略は、一連の地政学的、軍事的、財政的な挑戦課題とともに、海軍部隊がそれらの課題を方向付け克服する機会を明確にする。

我々は21世紀の挑戦課題に直面する中で、人員開発への強い決意を続け、新しい作戦概念を認証し、特に競争の激しい環境で戦闘優位を持続する革新的な能力を活用する。これらの挑戦課題に見合うためには、同盟国・提携国と協力すると一層強力になるという理由から、地球規模の海軍ネットワークを進んで活用する必要がある。

我々の最優先事項は、米国、米国民、ならびにその生活様式の安全保障と繁栄である。この戦略は、海軍、海兵隊、沿岸警備隊がこれまで2世紀以上に及んで遂行してきたように、米国民を保護し、米国の国益を向上させ続けることを保証している。米国の海軍力とは前方、関与、そして即応なのである。